

授業科目名	【G】西洋法制史 【EF】特殊講義(西洋法史)	区分 その他参照	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目:【G】教科及び教科の指導法に関する科目(一・地歴・一・一)／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目(一・地歴・一・一)					
授業形態	対面授業					
担当形態	単独	【G】 教員の免許状取得のための(一・地歴必修・一・一)科目 【EF】 教員の免許状取得のための(一・地歴選択・一・一)科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項:「外国史」(高一種免地歴)					
サブタイトル	ローマ法を軸に西洋法の歴史を理解する			担当者	塚原 義央	
授業概要	【概要】	この授業では主にローマ法を軸として、西洋法の歴史を概観する。日本法は明治期に西洋法、とりわけ大陸法の影響を受け成立したと言われる。そうした大陸法系の起源はローマ法であるが、古代ローマ人が作り上げた法は、ヨーロッパの各時代や地域において様々な形で用いられてきた。各歴史社会にはそれぞれに固有の法があることを踏まえつつ、社会的背景にも適宜目を向けながら法の歴史を振り返る。				
	【到達目標】	わが国における法の基礎となった西洋の法とその社会の歴史の変遷の過程について、ローマ法を介して知ることを通じて現在のわれわれ自身の国家や社会、法や法制度のあり方についてより深く考えるきっかけを得る。各時代や地域には固有の法があることを知ることによって、あらゆる物事を相対的に見る目を養う。単にヨーロッパ法史についての知識を得るだけにとどまらず、レポートの作成を通じて得た知識をまとめ、要領よく報告する能力も身に付ける。				
履修条件	歴史、特にヨーロッパの歴史に関心を持つこと。					
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)				
他科目との関連性	歴史系の科目をあらかじめ履修すると望ましい。また「法哲学」をはじめとする基礎法関連科目もあらかじめ履修するのが望ましい。					
教科書	授業中に適宜、資料を配布する。					
参考書	ピーターズタイン著(屋敷二郎他訳)『ローマ法とヨーロッパ』ミネルヴァ書房、2003年 勝田有恒他著『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房、2004年 長谷川兵男、樋脇博敏著『古代ローマを知る辞典』東京堂出版、2004年 金澤周作監『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年					
評価方法	授業への参加態度(小テスト含む)50%、期末試験またはレポート50%の総合評価。					
フィードバック方法	小テストの際、解答を明示するとともに解説を行う。					
評価基準	授業内容についてよく理解し、適切に表現できたものにはSまたはAを与える。内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はBまたはCとし、内容についての理解自体が不十分な者はDまたはEとする。レポート未提出など評価不能の場合にはFとする。					
その他	高校で世界史を履修していることが望ましいが、その限りではない。聞きなれない言葉が多く出るが、復習を徹底し、わからないことは講師に質問するなどして一つ一つ覚えていくこと。イヤホンをしながらスマホを見たり、私語をするなど授業の進行を妨害する者には、退出を命じる場合がある。 授業ごとの予習・復習時間は、各120分程度を目安としてください。 ※Gカリ:【選択必修履修(S)】 / EFカリ:選択					

授業科目名	【G】	西洋法制史	区分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【EF】	特殊講義（西洋法史）	その他参照		【EF】3		【EF】2
授業回数	授業内容						
1	イントロダクション:「西洋法史」という学問について						
	予習:	「法制史」という言葉を法学辞典で調べる。		復習:	法制史という学問の性格について、整理する。		
2	ローマ史概観、ローマ法の時代区分						
	予習:	世界史教科書等でローマの歴史を調べる。		復習:	ローマの歴史について整理する。		
3	共和政期ローマの法						
	予習:	参考書に挙げた文献で共和政期の歴史を調べる。		復習:	共和政期の法および歴史について整理する。		
4	帝政前期ローマの法						
	予習:	参考書に挙げた文献で帝政前期の歴史を調べる。		復習:	帝政前期の法および歴史について整理する。		
5	帝政後期ローマの法						
	予習:	参考書に挙げた文献で帝政後期の歴史について調べる。		復習:	帝政後期の法および歴史について整理する。		
6	ユスティニアヌス法典（ローマ法大全）						
	予習:	参考書に挙げた文献で帝政前期ローマについて調べる。		復習:	帝政前期のローマ社会について整理する。		
7	中世の法①－注釈学派						
	予習:	参考書に挙げた文献で注釈学派について調べる。		復習:	中世における法学の興りについて整理する。		
8	中世の法②－註解学派						
	予習:	参考書に挙げた文献で註解学派を調べる。		復習:	注釈学派がどのように変化したかについて整理する。		
9	近世の法						
	予習:	参考書に挙げた文献で近世自然法論を調べる。		復習:	近世における法の展開について整理する。		
10	近代の法①－フランス民法典						
	予習:	参考書に挙げた文献でフランス民法典について調べる。		復習:	インスティトゥティオーネン体系を理解する。		
11	近代の法②－歴史法学派						
	予習:	参考書に挙げた文献で歴史法学派を調べる。		復習:	サヴィニーといった法学者について整理する。		
12	近代の法③－パンデクテン法学						
	予習:	参考書に挙げた文献でパンデクテン法学を調べる。		復習:	ヴィントシャイトをはじめとした法学者について整理する。		
13	近代の法④－ドイツ民法典						
	予習:	参考書に挙げた文献でドイツ民法典について調べる。		復習:	パンデクテン体系を理解する。		
14	近代の法⑤－近代日本における西洋法継受						
	予習:	参考書に挙げた文献で原田慶吉、船田享二について調べる。		復習:	近代日本における法の発展について整理する。		
15	まとめ、レポートの作成方法について						
	予習:	これまで配布されたレジュメを一通り見ておく。		復習:	授業内容を整理し、レポート作成に取り組む。		

科目コード B123-1-X